



第 2 4 号
 発 行
 小松同窓会本部

〒923-8646
 小松市丸内町二ノ丸15
 石川県立小松高等学校内
 同窓会報編集委員会
 TEL・FAX (0761)21-6330
 印刷 マルト印刷工業株式会社

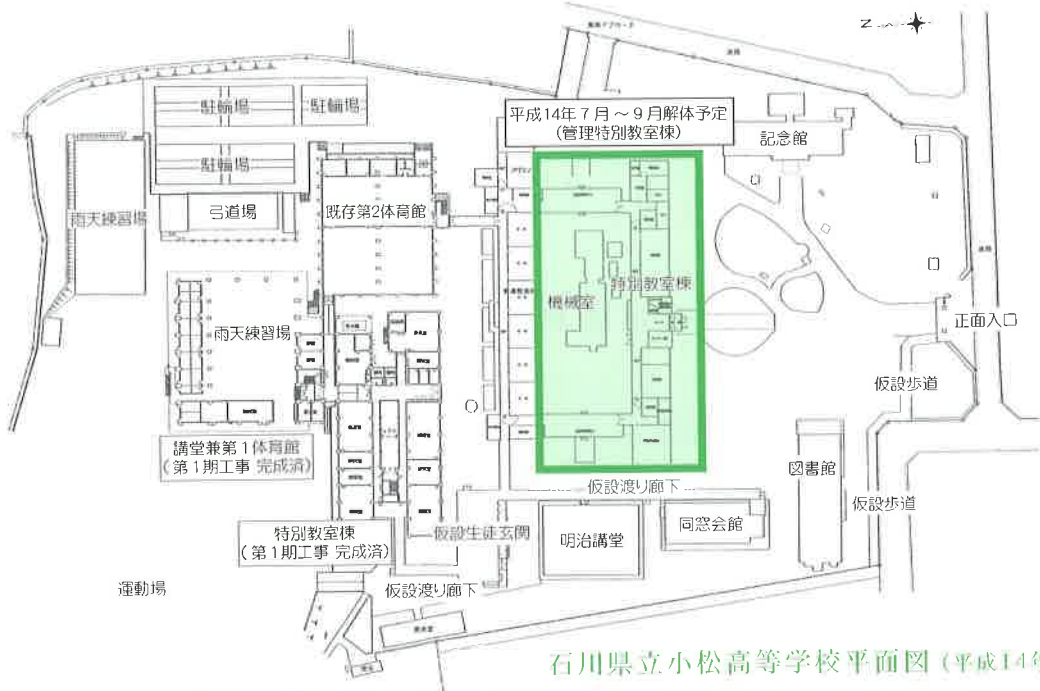
小松高校改築二期工事 管理教室棟の建築に着手

事務長 和田 泰博

小松高校改築二期工事は平成十四年度第二期工事（管理教室棟）に着手する予定で、四月から六月建築場所の埋蔵文化財発掘調査を実施しています。七月から九月にかけて旧管理特別教室棟を解体することになっており、芸術・理科関係は新特別教室棟へ移動しました。校長室・事務室・学務員室は同窓会館一階を借り、職員室は教室棟の三階空教室へ移動しています。仮設校舎はジェット機騒音回避のため使用しないことになっており、既存の施設を利用しながらの改築となります。

十月からはいよいよ本格的に第二期工事が始まり、平成十六年一月管理教室棟の完成を目指します。二期工事では一階部分に校長室・事務室・保健室・進路指導室等の管理関係諸室を配し、職員室は生徒が気軽に立ち寄れる二階に、教室は二階から四階に配置されます。普通教室は全室南面採光とし、北側の廊下にはベンチスペースを設けることになっています。また、校舎の動線軸となる幹線廊下を幅員四・五メートルの学生モールとし、式典や集会時の通行量に対応するほかコンスペースとしても利用することになっています。教育相談室は既存の二倍強の広さを確保しています。一方、バリアフリーに対応するためエレベータ、身障者便所の設置、段差の解消等に配慮することになっています。二期工事が終わりますと、平成十六年、十七年に第三期工事（生活学習センター・環境整備）が実施されることになり、平成十七年度には建設地周辺の低層の居住環境と調和をとりながらも、学校建築として品格のある外観、そして、前庭から小松城跡に至る散策路や図書館・学習室などを集約した生活学習センターの整備による地域に開かれた学校が完成します。

（高校15回）



石川県立小松高等学校平面図（平成14年6月現在）

新しい時代と小松高校

学校長 石田 毅士郎



育てる教育環境が大きく変わりつつあることは確かです。

今年の4月から公立の学校では毎週土曜日を休みとする完全学校週五日制が実施され、それと並行して新学習指導要領が実施されました(高校は平成15年度から学年進行で実施)。これまでの教育の在り方が大きく変わろうとしています。これは子どもたちの生活時間を「ゆとり」あるものにする事により「確かな学力」を持つ子どもを育てることをねらいとしています。

「確かな学力」とは知識の量だけでなく、知識や技能を身に付け、活用する力、自分で考える力、自分で判断する力、自分を表現する力等と説明されています。この学力に関してや新学習指導要領の内容について、一方で学力低下につながるという声も聴こえてきます。ともかく、これからの子供たちを

下や学力格差の拡大の問題が年々大きくなっております。

小松高校はこれまで第1学区全域から優れた能力を持ち個性豊かな生徒が入学しており、生徒のほぼ全員が大学に進学をしております。本校は創立103年目を迎えますが、これまで地域社会の期待にこたえて、社会の中核、リーダーとなつて活躍する人材を育て、多くの俊才を輩出してきました。これからも小松高校の果たす役割は変わることがないと思っております。しかし時代とともに社会は変化し、それに伴って本校生徒の気質も少しずつ変化してきております。昨年、本校生徒の生活や学習状況に関して、先生方の声を聴きましたところ、以前に比べて、マナー、モラル、品性、自主性、判断力、忍耐力、集中力等の減退が見られるようになってきたと言声が多くありました。生活に関して、具体的には遅刻の増加、服装容儀の乱れ、提出物の遅れなどが表れております。これは一言で「人間力」が減退してきていると言えます。この「人間力」の減退は学習面の後退に表われており、学習意欲の減退や学習時間の減少へとつながり、本校では学力低

このような状況が見られるなかで完全学校週五日制が実施され、これに対応した新学習指導要領にされるなか、ほとんどの国立大学では2004年度の入試センター試験から従来の5教科6科目から5教科7科目にすることを発表しています。この背景には基礎学力の重視の他、入学してくる学生の学力低下に対応したものとされています。また大学入試競争での圧倒的力を持つている中高一貫の私立高校の多くが学校6日制を維持しています。このような私立高校に対しては大学受験の情報誌によれば、完全学校週五日制の実施によりこれから「地方の公立進学校は生き残れるか」ということを言っております。理想と現実のなかで地方の公立進学校の一つである本校にとってこれからのたいへん厳しい状況におかれることが予想されます。

ところで経済のグローバル化、国際競争力の激化により、日本経済は大きな転換期を迎えていることはご存じかと思えます。この激しい変化のなかで、長く続いた終身雇用制は崩壊し、求める人材の在り方が大きく変わってきています。国立大学の独立法人化や大学の統合・再編の動きに見られる大学改革も

平成14年度小松同窓会会計予算決算書

●収入の部

科目	14年度予算額	13年度決算額	
入会金	3,610,000	3,620,000	卒業生 10,000×361名
繰越金	645,526	692,156	前年度会計より
諸収入	244,474	355,418	預金利息 樹木管理費等
計	4,500,000	4,667,574	

●支出の部

科目	14年度予算額	13年度決算額	
総会費	450,000	401,667	総会・新年会関係経費
卒業記念品	250,000	235,620	卒業生記念品代
名簿作成費	200,000	181,440	前年度卒業生名簿印刷経費

通信事務費	250,000	249,060	事務連絡用郵便切手・ハガキ代
渉外費	400,000	392,050	事務局諸経費、広告代等
パソコン管理費	1,300,000	1,285,898	パソコン消耗品、職員手当
会報事業費	500,000	499,945	会報印刷費、編集経費
記念館事業費	140,000	139,970	記念館展示諸経費、講師謝礼
会合行事費	250,000	233,095	常任理事会等経費・役員派遣費
一般事業費	400,000	399,303	樹木管理費、同窓会館維持費
雑費	100,000	14,000	慶弔費
予備費	260,000	0	
次年度繰越金		645,526	
計	4,500,000	4,667,574	

この大転換の時代に対応したものです。それは当然大学入試にも見られます。学力低下の対応や基礎基本の重視としてセンター試験の科目増についてはすでに述べましたが、一方では「小論文」、「面接」、「総合問題」等の二次試験を重視する傾向がはつきりしています。これは大学が求めている学生の資質として思考力、人間力、課題探求力、表現力、視野の拡大等をあげております。これらの資質は今日厳しい競争にさらされている企業が求める人材と共通しているものと言えます。経済同友会副代表幹事で日本IBM会長でもある北城格太郎氏は、今日企業では学生の採用では面接を最も重視しており、その際「大学でどんなことに取り組み、何を学んだか、どんな意欲を持っているか」を聴くとのことだそうです。2番目は入社試験、語学と時事問題の成績、最後に学部、専攻で出身大学だけで採用を決める会社はほとんどなくなっているとのことだ。「どこを出た」から「何ができるか」という実力選別の時代となっているとのことだ。そして、企業が必要とする人材像として、自分で課題を見付けられる能力を持つ人、得意分野を持つ人（スペシャリスト）、コンピュータ（英語とインターネット）の利用にたけ

た人ということでした。さらに学校教育に求めるものとして「最低限の基礎学力と社会ルール規範を教えること、その上で子供たちの得意分野を生かすために、企業人、文化人、芸術家等幅広い分野の人が学校教育にかかわり、多くの仕事の選択肢を見せることで、生徒が自分が何に興味があるかを見いだすことが大切である」と語っております。全くと同感で、本校がめざす教育にもおおいに参考となるものでした。

ところで最初に取上げた来年度から実施される新学習指導要領が目指す「確かな学力」は、これからの日本社会が求める人材の資質とおおいに共通する所があります。しかし、その間には大きな溝があると思います。高い教育理念のもとで理想を説く学校と厳しい国際競争力のさらされる現実の社会の溝です。この溝をどう埋めていくかが課題です。そのためには学校が変わることが必要です。地域に開かれた学校づくりということが言われますが、まさに地域に開かれた学校を目指すことが、学校が変わることにつながるのだと思います。教師の意識改革は当然必要ですが、学校内部の改革には限界があると思います。私はこれからは学校外の教育力、保護者

(PTA)、地域社会、同窓会等の方々の教育力を積極的に活用することが不可欠です。これらの方々から学校教育にかかわるなかで生徒が変わり、また教師の意識も変わると思っています。昨年から学校活性化マイプランの事業で先輩を招いてのパネルディスカッションや13の職場訪問を行いました。訪問先での説明案内を先輩の方がしていた所が多くありました。これは予想以上の成果でした。先輩の方々の説明案内には後輩をおもいやる愛情と仕事のやりがいと厳しさが後輩に伝わった他、訪問の際の挨拶等のマナーの大切さを生徒たちが感じたことがあげられます。実施してみてもこのような教育実践が今以上に必要性を痛感したととも小松高校同窓生の母校に対する熱い思いを後輩たちに伝えていくことの大切さを知りました。

来年度の新学習指導要領にもとづく教育課程では「総合的な学習の時間」(総合)が実施されますが、この時間でこうした学校外の教育力、とくに同窓生の方々の全面的協力をお願いしたいと思っております。そしてこの「総合」の時間の取り組みを通して小松高校の一層の活性化を図っていききたいと考えております。

平成13年度小松同窓会運営基金特別会計現在高

繰越額	収入額	差引残額	摘要
7,823,166円	1,259円	7,824,425円	預金利息 1,259円

平成13年度小松同窓会基本財産特別会計積立額

北國銀行定期預金 15,000,000円 + 新生銀行債券貯蓄 10,000,000円 = 25,000,000円

平成13年度小松同窓会天守台編集委員会郵便振替受払額

受入額	払出額	差引残額	摘要
1,668,530円	314,355円	1,354,175円	会報「天守台」送料、郵便振替料 平成13年度受入 4件

これまでの人生・ これからの人生

竹田 外茂枝

今、自分の来し方の歳月を思い、波瀾万丈とまではいかないもの、これが人生だと感じて居ます。

憧れの県立小松高女に入学し勉学に、音楽会に、将又、遠足、運動会、水泳、スキー等々のスポーツに今までと違った学生生活を、喜びと誇りを持って過ごしました。

その後戦争が激しくなり防空壕掘りや、稲刈り、野菜作りにかり出される毎日が続き、やがて三年生の夏に学徒動員となりました。軍需工場でハンマーや、旋盤と取り組み、学校での授業は無く、翌年の八月十五日に終戦を迎えました。ようやく学校生活が始まって、僅か半年ばかりで卒業となっていました。

それから三年して結婚し三人の子供を育ててとても幸せでしたが、或る時突然家の倒産で大変苦労しました。けれども主人と一生懸命に働いて三人の子供はそれぞれ大学を卒業して家庭を持って居ます。現在は六人の孫と、四才になった曾孫が居て、心安まる日々です。孫夫婦と曾孫の三人は勤務先の会社において、昨年よりアメリカのボストン大学で経営学を専攻しています。又娘夫婦はニューヨークに六年程駐在して居ましたので、

その間二度ばかり行って来ました。今度はぜひボストンへ行きたいと思つて居ます。

あのアメリカとの戦争を思い、今は身内の者が仕事や勉強にいつて居る事は、これも時代の移り変わりでしょうか、万感の想いで一杯です。

付記

私には生き甲斐が一つあります。これからの人生に何か趣味をと考え、昭和四十九年に吟詠の道に入りました。二十八年を経た今は教場も四ヶ所持つて忙しい日々です。漢詩は大変奥深いものですから生涯かけて探究して行く事こそ、私のこれからの人生の生き甲斐だと思ひます。



(県女34回)

前列中央が竹田です。

町なかの看板・掲示から

小坂 陟

一時間程度の町歩きが、毎日の日課になっている。十年余り続いている。自然、いろんな看板・掲示のたぐいが目につく。

「二〇〇三年十月(平成十五年秋) 寻太神社 壹阡五百年大祭 齋行予定」

この八幡さんについては、小松中学時代、故清水藤九郎先生から社内社だときいていたので、なるほど古いもんだと改めて実感した。

「只今、小松駅高架化工事のため、待合室はご利用頂けません。またコンコース及び地下通路の一部が大変狭くなつており、通行にご不便をおかけしております。工事終了(H14・11・末日予定)までの間、お客さまには大変ご迷惑をおかけ致しますが(以下略) 小松駅長」

昭和のはじめの大火以来、目立った変化のなかつた市の中心部は鉄道高架化を軸に、ようやく大きく変貌することになった。郷土の発展を願つものとしては嬉しい限りである。「駐車場につき、車の出入りあり危険です。下記禁止します。○車へのらぐがき ○ボール遊び ○スケートボード遊び ○自転車のみ」

「子どもの頃遊んだ神社の境内。車社会のひずみがここに表れている。鎮守の森ということばの響きが懐かしい。」

「弥陀の本願を信じ、念仏申すと、如来の家に帰る用意をすべし。」

「私は正しい、とは誰もが言う。すみません、はなかなか言えない。」寺の門前の掲示には、時にハッとさせられることがある。

(中学43回)

先輩と後輩の縁(えにし)

林 滋

平成3年、金沢へ通勤することになって、町始発の金沢駅行きのバスを利用しては、駅西の産業振興センターまで片道2時間は長かった。どうにも勿体なくて買っておきの「日本の古典」全集や英語の小説本などを持ち込んだが、そのうち高校生受験勉強のお相手にと変った。順調に京都大、神戸大、金沢大と目標校に合格した受験生は毎年後輩を紹介して行ったが四年目で杜絶えた。最終年は中学生時代に町の図書館で顔見知りだった3人と隣町の1人の2ペア4人のお相手でお茶の水、金沢大教育2、一浪で終つたが、一浪の子は翌年金沢大医学部に入り今春卒業した。京都大の娘は今春結婚し静岡に、残りはまだ独身で北海道、東京、大阪に1人ずつ、一応全部社会人である。平成8年、小松で組合事務局長に就職した時、小松行きのバスで、同じ試みをしたが二十分位では至難であつたし、乗客も多く、本を拡げる高校生も全く、夢になつた。

それでも、3年前に新聞の投稿欄で「進学校から就職することの至

難さ」を訴えていた子と、福井大医学部から金沢大工学部に再入学した子の相談にのることとなりそれぞれの親子と文通が続いている。両組親子とも会ったことも無かったが、金沢で働いている娘さんと先週出合いがあった。小松高校の同級生で富山大に進学した子が先日入社試験に合格、同じ職場で働くことになったと言っから、演劇部員だった彼女を伴い、大先輩12代校長の井口さんを近代文学館々長室に訪ねた。心なしか明るさが見えた彼女の表情に安堵。

(中学46回)

町制記念綱引き大会

西田 真由美

毎年行われている川北町の綱引き大会、今年で13回目。初めてこの大会を見たのは、主人が参加していたときのこと。一チーム八人、一番後ろでヘルメットをかぶってひっぱっている。それが主人だった。地区対抗でここまで本格的にやっている綱引き大会にとっても驚いたこと、それから主人のヘルメット姿を見て「あんな格好までしてやるの。」と思ったことは、今でもしっかりと覚えている。そんな感想を持った綱引き大会に、私自身、4回目の参加。背が高い方でわりとがっしりしている私は一番前か、あんなにいやだと思っていた最後尾のアンカーだ。

今年の練習も大会前の一週間。初日の練習に行ってみると、なんと

私が最高齢ではないか。「今年のアンカーは決まりだな。」今まで先輩方の言うことをただ聞いてうなずいている方だったのに突然指導？とまではいかないが教える立場に。新しいメンバーも加わり一から伝えなければならぬ。見よう見まねで取り組んできた私は、基本的な指導を受けていないのでどのようにならぬのか心配しながらの一週間だった。勝ち負けよりみんなで楽しみながら参加できればと思っていたが、やはり本番になると力が入る。今年はいくじ運もよく順々に勝ち進み、決勝へとこまを進めることができた。結果18チーム中2位。毎晩の練習はつらかったが、思いもよらない好成绩に今は満足している。

あと何年、綱を引くのかな…。(高校36回)

野球部創部100周年

記念事業招待試合を終えて

小松高校野球部OB会

会長 白江 一也

5月26日(日)小松高校野球部創部100周年記念事業の一環として、富山県立新湊高等学校野球部を寺井町民球場に招いて、母校小松高校野球部と記念招待試合を開催しました。当日は天候にも恵まれ、予定の2試合を無事終了することが出来ました。

この企画は小松高校野球部が本年100周年を迎え、野球部OB

会が計画したものです。記念事業のOB戦100イニングの中に現役野球部の招待試合を入れ、夏の甲子園大会へ向けての練習試合とし、選手たちのモチベーションの向上につながればと考えたものです。新湊高校といえれば皆さんもよくご存じのとおり、小松高校が3年前に2回目の甲子園出場を果たしたときの対戦相手です。9回まで5点をリードしながら追いつかれ、延長戦の末に敗れた…皆さんも思い出しましょう。あの時は小松高校の創立100周年の年でもあり、野球の他でも大変盛り上がった年でもありました。

新湊高校は50年以上の歴史があり、野球部の戦歴も小松高校以上に、富山県の強豪としての伝統を作りつつある高校です。現在のチームも今春季選抜甲子園大会に出場し、大変まとまった強いチームです。

当日は小松高校野球部関係者のみならず、新湊高校の父母や私設応援団の皆様も数多く来場され、試合を観戦されていました。また小松高校の先輩方、地元高校野球ファンの皆様も数多く来場して頂きました。

第1試合では春の甲子園大会で活躍されたチームらしく、新湊高校が力を発揮され、小松高校は大敗いたしました。選手達にとっては良い試練になったと思っております。観戦している皆様の中にも、俄野球解説者になりピッチャーの投球したスピードが…タイミングの取

り方が…配球が…今のはストライク…等々の解説交じりの話をされ、十分試合を楽しまれていたようでした。

野球部創部100周年記念事業の今後のスケジュールですが、今回の招待試合を含めまして100イニング記念試合は昨年の8月14日にスタートし、現在27イニングを消化したところ。今年の8月14日に18イニング、10月12、13日両日に残りの55イニングのOB戦を小松高校のグラウンドで行います。興味のある方は観戦に来てください。また10月13日には記念式典も行う予定です。100年の歴史が詰まった記念誌も本年度中にも発行したいと思っております。詳しい事が知りたい方は小松高校のホームページの中に在る小松高校野球部のホームページにアクセスしてください。

100周年という節目の年を迎え、今現在私は歴史のある小松高校の野球部OB会の会長という大役を仰せ付かっていますが、自分と言うのもおかしいですがそんな人物ではございません。ただある事情により中継ぎ投手としてマウンドに登ってきた、という感じです。しかし仰せ付かった以上、次の人に代わるまでは一生懸命がんばるつもりです。今、先輩達の築き上げてきた伝統を肌で感じ、小松高校の良き校風も改めて感じ入っています。

(高校28回)

同窓会だより

級会美齡会

川辺 他喜子

戦時色が刻々と濃くなる昭和十七年三月に卒業。それから六十年、平和な世の中で長生きできたことを、日々感謝しております。この期間に級会が開かれて来ました。第一回は卒業の翌年でした。竜助町の寺尾喫茶店で、恩師上杉先生をお招きして開かれました。私達の級会で先生をお招きしたのは、これが一度きりでした。それ以後は戦争激化で中止。二回めは昭和二十一年五月、白楊会館の二階で開かれました。家庭科の教室があった所でも懐しい会合でした。昭和五十年に級会の名前を、木村さんの提案で美齡会と付けました。美しく元氣な齡を重ねられるようにとの願望です。この美齡会員も今年喜寿を迎え、この年を節目として最後の会にしようとして、六月四日、山中温泉、新山乃湯で開きました。参加者は三十八名で、去年を二十名も上回りました。開会の挨拶は小松弁でこの要請で、安田さんが昔ながらの小松弁でされた時は歓声が上がりました。会の冒頭に十九名の物故者の冥福を祈りました。乾杯の音頭を岸本さんがされ、終わつた瞬間、北野さんの狸々、鶴亀の謡曲が始まりました。

した。荘重な中にも和やかな中で宴が始まりました。宴会場に突然餅搗道具が運ばれました。宿の御主人の配慮でした。谷川、東出さんの息のあつた餅搗ぎが始まり、「昔取つた杵柄」の言葉通り、コンビで餅に丸められました。その妙技に皆感嘆、搗きたてのきな粉餅で頂きました。

余興では、木村さんの詩吟「静御前。」嵐さんが語りべとなつて山んばの昔話。松岡、宮永さんの日舞。太田、木村、清水、滝本、南、宮永さんのカラオケで、一段と盛りあがりしました。最後に全員で校歌斉唱、お祝いに紅白のお餅を頂き、閉会となりました。

今迄になかつた充実した級会。美齡会最後としてのふさわしい名残惜しい会合でした。

(県女30回)

白楊会便り

福島 利子

北陸の名湯粟津温泉一万八千坪の広大な庭園に四季折々の花々が豊かな自然を醸し出している「辻のや花の庄」を会場に、六月十六、十七日に平成十四年度の白楊会の総会を開催いたしました。

卒業生、二十回生をはじめ三十回生まで八十二名の方が出席されました。今年は、三十二回生が幹事を受けたまりましたので、

今まで総会に出席したことがない方が多いと聞き、此の機会に先輩後輩の方との交流もあつてもよいのではないかということで、年一回のクラス会を総会に便乗させていただきました。五時半私達は、ロビー奥庭で記念撮影をすませ、六時に大広間に於いての総会に参加しました。

総会は36回生伊勢純江様の司会で開会され橋喜久重会長の挨拶に続き、大田様から十三年度の会計報告、会計監査報告があり、無事総会が終わりました。続いて前会長の宮西すず子様の乾杯の音頭で、皆さん楽しみにしておられた懇親会にうつりました。今日の日の為に体調を整えて出席された方、又関東関西方面から出席された方、日頃のお疲れをときほぐし乍ら、おとなり、おむかいどうし、語り合い、旬の味覚を味わいました。

次に心もお腹も満ちたところで、皆さんの特技を披露していただきました。日本舞踊、詩吟、合唱、カラオケ、ダンスと、さすが白楊会ならではの華やかな宴の夜を心ゆくまで楽しませていただきました。そろそろお疲れの出たところで、全員懐かしい小松高等女学校々歌を、声高らかに斉唱してお開きにしました。

三十二回生は、一空に集り一年ぶりの出合いを喜び、欠席された方の消息を語り合い、プリントさ

れた乙女時代の歌を合唱し級友のきずなを深めました。他回生の皆様もゆつくりお風呂に入り一夜を過ごされたと思います。最後にこの白楊会が私達県女卒の誇りとして長く長く続きますようお祈りいたします。

追伸 十九日に亡くなられました、百周年記念曲(世紀の祭典)作曲されました山本直純様のご冥福をお祈りいたします。

(県女32回)

第2回 ホームカミングディのご案内

期日：平成14年9月29日(日)
会場：小松高校記念館及び天守台周辺

昨年9月30日に第1回ホームスクールカミングディが実施され、還暦と初老を迎えた卒業生を中心に約120名が参加しました。階段教室で井口哲朗先生と三井淑朗先生のなつかしい授業を受けた後、天守台で懇親会が行われ、皆大いに盛り上がっていました。今年は9月29日(日)に行われます。還暦(高校13回)、初老(高校33回)を迎える会員の方はふるってご参加下さい。

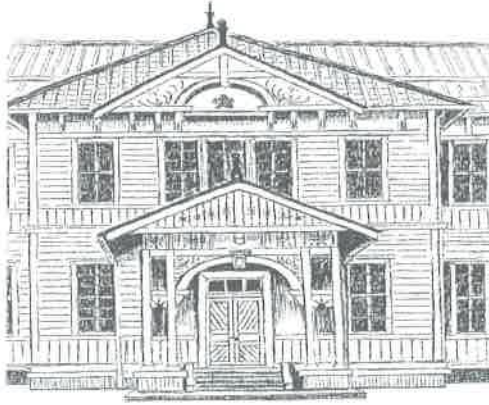
人間国宝

記念館委員会だより

徳田八十吉展

○期間 9月2日(月)~30日(月)
(平日10:00~15:00 土・日・祝日は同窓会事務局にお問い合わせ下さい)

○場所 小松高校 記念館



同窓生に人間国宝が徳田八十吉さんと吉田美統さんのお二人がおられます。そこで学校の文化祭やホームカミングデーにあわせて、まず徳田八十吉展を開催することになりました。学校にいな

記念館展示美術品が展示替えされました。ぜひご覧下さい。

Table with columns for artwork type (絵画, 陶芸, 写真), artist name, and exhibition details. Includes items like '新井康平像', '釉象茶碗', and '徳田八十吉'.

トピックス



天守台の松の木伐採!?

現在天守台の上に松の木が4本あります。これは昭和40年、創立50周年の時に、小松中学13回生(大正5年卒)の方々が植樹されたものですが、大きく育ちすぎ、天守閣の石垣を壊す勢いとなったため、文化財保護の名目で2本が伐採されることになりそうです。

土曜ゼミ始まる

4月からの完全学校五日制の施行に伴い、土曜日に補習等を行う動きが出てきていますが、小松高校でも6月より土曜補習(土曜ゼミ)がスタートしました。希望者を対象に原則月2回行われる予定になっています。学力補充が中心ですが、インターネットを使った英語学習など普通の授業では行えない内容も盛り込まれています。

平成14年3月卒業生の主な進学先

国 公 立 大 学						私 立 大 学			
金 沢 大 39	北 海 道 大 6	東 京 外 大 1	名 古 屋 大 7	立 命 館 大 7	慶 応 大 6				
富 山 大 18	筑 波 大 3	お 茶 の 水 大 1	神 戸 大 5	関 西 大 6	青 山 学 院 大 3				
福 井 大 5	千 葉 大 1	横 国 大 2	大 阪 大 3	同 志 社 大 8	明 治 大 4				
福 井 医 大 3	東 京 大 1	信 州 大 4	九 州 大 1	関 西 学 院 大 3	法 政 大 4				
新 潟 大 8	京 都 大 3	静 岡 大 5	東 京 都 立 大 2	早 稲 田 大 2	東 京 理 科 大 4				

過去12年間の合格状況

国立大学	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	公立大学	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
北海道大	4	6	3	6	2	6	9	8	7	4	9	6	東京都立大	3	2	2	0	2	1	0	0	1	2	0	3
東 北 大	9	11	10	10	8	6	6	7	9	3	4	1	横 浜 市 大	1	1	1	4	2	1	0	1	1	0	1	0
筑 波 大	6	0	2	4	6	3	7	3	6	5	3	4	金 沢 美 工 大	4	4	2	0	1	2	1	1	3	3	2	1
千 葉 大	7	7	9	3	5	9	7	7	4	3	4	2	京 都 府 大	2	0	2	1	2	1	0	1	0	0	0	1
東 京 大	2	4	3	7	2	2	3	4	1	2	2	2	大 阪 市 大	2	2	3	1	2	3	2	4	1	0	2	0
東 京 外 大	1	0	2	1	1	0	0	0	2	1	0	1	大 阪 府 大	3	2	5	2	0	4	1	0	2	0	0	2
東 京 工 大	0	2	2	0	1	2	0	3	5	0	2	0	神 戸 市 外 大	1	1	2	1	2	0	1	0	1	1	0	0
お 茶 水 大	1	2	1	0	2	2	0	0	2	1	1	1	そ の 他	13	17	18	16	24	19	13	9	12	16	16	15
一 橋 大	1	1	2	2	1	2	1	1	1	0	0	0	公 立 大 合 計	29	29	35	25	35	31	18	16	21	22	21	22
横 浜 国 大	6	5	3	3	3	3	7	5	4	8	2	3	私 立 大 学	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
新 潟 大	6	6	3	5	5	13	6	14	5	5	11	10	早 稲 田 大	15	16	21	12	24	12	15	15	17	12	9	18
富 山 大	43	34	30	33	23	21	12	16	14	24	23	21	慶 応 大	10	2	12	14	17	13	13	12	9	11	5	12
富 山 医 薬 大	2	1	5	2	3	1	2	3	1	6	2	0	明 治 大	14	15	12	17	9	6	9	12	15	11	13	10
金 沢 大	60	70	62	71	47	68	37	61	52	54	53	47	立 教 大	5	2	2	6	3	1	0	5	8	1	5	7
福 井 大	10	8	7	3	5	4	9	7	3	6	6	6	法 政 大	19	15	19	9	9	6	10	14	14	8	12	14
福 井 医 科 大	1	1	0	0	1	1	1	3	3	1	3	4	中 央 大	10	14	10	10	7	13	5	13	5	11	10	9
信 州 大	8	9	9	12	11	4	1	5	5	6	4	4	日 本 大	25	20	22	25	12	17	11	23	16	12	15	18
静 岡 大	12	13	7	6	11	5	8	5	4	3	5	5	青 山 学 院 大	6	9	9	4	7	10	4	6	13	12	10	9
名 古 屋 大	4	7	7	6	7	4	13	8	5	4	8	8	東 京 理 科 大	16	7	18	11	16	11	11	6	6	5	12	21
名 古 屋 工 大	1	3	4	4	4	0	9	3	3	2	5	2	専 修 大	10	8	5	5	3	5	2	6	4	3	2	4
滋 賀 大	4	6	0	3	3	1	0	0	0	0	0	0	上 智 大	3	0	4	3	5	0	2	4	1	2	6	3
京 都 大	14	7	6	7	5	5	4	10	6	5	3	5	同 志 社 大	25	23	28	35	24	25	22	28	27	14	16	24
大 阪 大	7	8	11	7	7	6	10	10	6	11	7	4	立 命 館 大	31	27	40	60	36	30	47	44	59	37	65	66
大 阪 外 大	3	2	3	2	3	3	1	2	3	3	0	4	関 西 学 院 大	6	15	15	20	11	10	7	19	10	10	12	17
神 戸 大	4	9	6	13	5	4	7	11	5	7	6	6	関 西 大	31	21	41	23	26	34	15	32	38	27	30	30
広 島 大	1	2	0	7	1	5	4	6	4	4	1	0	京 都 産 業 大	17	9	15	14	15	18	12	8	9	9	14	12
そ の 他	48	56	35	29	47	35	35	25	24	22	36	36	そ の 他	239	355	291	309	293	323	241	78	235	226	252	207
国立大合計	265	280	232	246	219	215	198	227	184	190	200	182	私立大合計	482	558	564	577	517	534	426	325	486	411	488	481

編集部だより

○お盆の頃になると、毎年各期の同窓会がとり行われているようですが、楽しかった会の様子を是非編集部までお寄せ下さい。

○本誌(天守台)を送付ご希望の方は、郵送料として、〇〇〇円を同窓会事務局までお送り下さい。五年間(十回分)お送りさせていただきます。

第25号の原稿募集

- ◎バ切 平成14年11月20日
- ◎内容 自由(在学中の思い出、同期の催し、近況報告など)
- ◎送先 〒923-8646 小松市丸内町二の丸15 小松同窓会事務局宛
- ◎発行 平成15年1月

同窓会報編集委員

- 委員長 宮西 勉夫(高校9回)
- 委員 安田 進一郎(中学45回)

同窓会事務局

- 学校職員 村井 恭子(高校34回)
- 田中 哲臣
- 紺矢 亮一
- 弥久保 悦朗